

ベネズエラ大使が記念植樹

国際貢献大学校 開校5周年で招く

公設国際貢献大学校の開校5周年を記念し、校庭にギンモクセイを植樹するイシカワ大使



生時に緊急物資輸送基地となる防災訓練シェルターを見学。的野秀利校長、管理者ら職員が見守る中、校庭にギンモクセイ

(一・五折)を植樹した。関連施設で在宅のお年寄りを支援する「在宅合同事務所」(同市哲多町本郷)も訪れ、利用者と日本語で交流。イシカワ大使は「日本人は自然に助け合いのできる人が多く、『協働』の意識も高い。訪問をきっかけに、岡山とベネズエラの交流を進めたい」と話した。公設国際貢献大学校は二〇〇一年九月、合併前の旧哲多町が少子化で廃校となった小学校跡地に開設。国際協力をテーマにした研修、災害被災地支援などを行っている。(赤井康浩)

国際医療ボランティアAMDAGグループ(本部・岡山市櫛津)が運営する公設国際貢献大学校(新見市哲多町田渕)が八日、開校五周年を迎え、記念行事として、駐日ベネズエラ大使館(東京)のセイコウ・ルイス・イシカワ・コバヤシ特命全権大使(三三)が同大学校で記念植樹などを行った。

イシカワ大使は、沖縄県出身の父と山梨県出身の母を持つ日系二世で、「環境はベネズエラだが、